令和５年度　校内研究

１　研究構想図

七小今年度の柱

未来を自ら切り拓く子供たちを育てる学校

教師・保護者・地域の願いと社会的要請

児童の実態(教師のみとり)

- □ 言われたことを素直に取り組むことができる児童が多い。
- □ 見通しをもって計画的に行動することが難しい児童が多い。
- □ 表現力が乏しく、自分の言葉で分かりやすく説明することが苦手な児童がいる。

(学力テスト等)

- □ 国語・算数ともに全国・都平均を上回った。(令和４年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より)
- □ 全体的に思考力判断力が他よりも低い傾向にあり、下学年から積み上げができていない児童が複数見受けられる。(TBD より)

学校の教育目標

○かしこく
◎やさしく
○げんきよく

教育の今日的課題

- □ 予測不能な社会、世界情勢の不安。
- □ 児童の多様化。
- □ 学習意欲の低下。
- □ 情報化の加速度的な進展に関する対応の遅れ。
- □ 誰一人取り残さない教育の実現。

関係法規

都・市教育方針

研究主題

他者を理解し、相互に関わり合える児童の育成

～互いの思いや考えを共有するための工夫を通して～

研究で目指す児童の姿

他者を理解し、相互に関わり合える児童

研究の仮説

自己を見つめるための工夫や手立てを行い、互いの思いや考えを共有することで、他者を理解し相互に関わり合える児童を育成できるのではないか。

研究の内容

研究の考察と授業改善

研究授業

意識調査

(研究部からの提案)

・児童への実態調査(全校・各学級事前アンケート)

重点項目

(研究部からの提案)

・ルーブリック評価を活用した授業改善

・教材分析(ポジティブ・ネガティブな本音の視点)

・関連する道徳的価値について

日常の取り組み

(研究部・分科会の提案)

・児童がお互いに認め合う場面の設定

・教師による価値付け

・ペアや小グループでの活動

・教室掲示の工夫

授業展開の工夫

(自己を見つめるための工夫)

・考えの共有(友達と考えを交流し、比べたり違いに気付いたりする)

・振り返り(振り返る視点を明確にし、より自分自身について考えられるようにする)